

子ども学フォーラム (全2回)

＜家族＞であることー模索と選択のストーリー

第1回

映画上映と対談

＜家族＞になることー映画『玄牝』をめぐる対話



げんぴん
玄牝
genpin

＜家族＞は自然発生的に生まれるのではない。家族は＜家族＞であるための不断的努力を続けて＜家族＞でいることができる。長い時間をかけて紡ぎ出される＜家族＞の歴史は、＜家族＞の、繰り返される模索と選択のストーリーでもある。

子ども学フォーラム第1回は、河瀬直美監督による産科医院を舞台にした映画『玄牝』をめぐる対話である。さずかった子どもをどのように＜家族＞として迎えるのか、「自然なお産」という選択は母親や家族にとってどのような意味があるのか。その意味づけに着目し、家族の迎え方は、なぜ＜家族＞であることの重要なテーマになるのか、考えてみたい。

映画『玄牝』ホームページ
<http://www.genpin.net/index.html>

2012年9月3日(月) 午後2時～5時

奈良女子大学
記念館2階 講堂
(重要文化財)

映画上映

『玄牝』(2010年)

監督・撮影・構成：河瀬直美
出演：吉村正、吉村医院に関わる人々

対談

河瀬直美 監督 × 大学生

コーディネーター：真栄城輝明 (本学教授)

プロフィール

河瀬直美

Kawase NAOMI



映画作家。生まれ育った奈良で映画を撮り続ける。
『につつまれて』(92)、『かたつもり』(95)で、山形国際ドキュメンタリー映画祭国際批評家連盟賞を受賞、国内外で注目を集め、1997年には初の劇場映画『萌の朱雀』(97)でカンヌ国際映画祭カメラドール(新人監督賞)を史上最年少受賞し、鮮烈なデビューを果たす。『玄牝-げんぴん-』では、第58回スペイン サンセバスチャン国際映画祭 国際批評家連盟賞を受賞。その他の代表作には『殯の森』『朱花(はねづ)の月』などがある。自身が提唱する「なら国際映画祭」は今年9月14-17日に第2回を開催。

対象

一般市民、教育・保育関係者、学生・院生ほか

参加費

無 料 (映画鑑賞とも) ※事前の申込みは不要です。当日、受付に直接お越し下さい。



お問い合わせ先

奈良女子大学地域貢献事業「次世代自立支援の子ども学」事務局 (代表：真栄城輝明)

電話/FAX 0742-20-3957

メール kodomo-gaku@cc.nara-wu.ac.jp

ホームページ <http://www.nara-wu.ac.jp/kodomo-gaku/>